

学校法人 聖ヶ丘学園 聖ヶ丘教育福祉専門学校附属 育和幼稚園

2019年度（令和元年）自己評価結果公表シート

育和幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2019年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- (1) 対象者：常勤教職員22名（在籍23名中1名は育児休暇取得中）
- (2) 実施日：2020年3月9日～13日
- (3) 実施方法：職員全体会議において、全教職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針：子どもの自発的な活動が確保されるような環境を整え、子ども一人ひとりの個性を尊重し、遊びを通して社会性、想像力を育み、生涯にわたる人格形成の基礎を培う役割を担います。

教育目標：○自分で考えて主体的に行動できる子 ○相手の気持ちを考えそのうえで自分を表現できる子 ○夢を描ける子

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

今年度初めて自己評価の取組となる。園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していく。また、今後教職員全体の共通理解を深め、さらによりよい園の運営を図る足掛かりとしたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
I 教育目標 ・教育方針	新年度に向けて、全職員が教育目標・方針について研修を行なった。教育目標・方針を頭に入れながら保育を行うことにより目指す方向が明確となり、一貫した保育を行う方向に向かうことを目指す。新任や経験年数の浅い職員が、戸惑うことや疑問を感じた場合、語り合う機会やノンコンタクトタイムによって職員間で問題・課題の解決へと導くことを行っている。
II 教育課程 ・指導計画	幼稚園教育要領を基本として、育和幼稚園独自の教育課程を編成している。職員間で子どもの姿について話し合い、子ども達の発達の状況に応じられるようにしている。今年度よりウェブ型記録やウェブ式指導計画、ドキュメンテーションなどの取組をはじめた。今後、職員間で共有できることを目指し

	ていく。また、日々の保育に必要な教材研究の取組や子どもたちの「やってみたい」に応じた保育の計画に取組む姿が見られ、他の職員にも保育への関心が深まってきた。
III 教育環境	子どもたち自らが経験し、実感できる環境づくりに努めた。今年度は、園庭の環境に取組を行なった。高台のアスレチック環境を検討し、木の伐採や実のなる木を植樹した。また、職員間で検討を重ね園庭に築山を作ったことにより、子どもたちの遊びや身体活動に広がりが見られた。環境を充実する必要性をあらためて感じた。園内環境の充実を検討していく。
IV 教育の内容・方法	教育課程を基に、子どもの主体性を大切にした保育の進め方について学年ごとに話し合いを行い、援助の内容が工夫できるよう検討している。子どもの興味関心にそった保育を進めることにより、5領域のねらいや内容、10の姿（幼児期に育ってほしい姿）に深く関連があることを職員間で共有し、保育の質について学び合いを行っている。
V 教師の役割 ・資質向上	本園では、幼児の発達をとりえるための研修を定期的実施するとともに日々の子どもの姿について話し合う機会を職員間でもっている。また、各研修会や研究会に参加し学んだことについて資料提出を行っている。今後研修会で学んだことを発表形式とし、園内研修で意見交換し全員が理解を深められるようにしていく。
VI 子育て支援	在園児の保護者の子育て相談については、各家庭の実態を踏まえ、保護者の気持ちを受け止め相互の信頼関係を大切に支援している。また、必要に応じて専門機関の情報提供を行い、園は関係機関との連携を図っている。未就園児の親子が定期的に登園するプログラムを提供し、存分に遊ぶことはもちろん、保護者同士や保護者と保育者の関わりの中で、子育ての悩みや抱えている相談に応じている。 園庭開放については、各学期ごとに数回、園内や園庭で行っている。親子で参加され、子どもが安全に楽しく遊ぶ環境を整えている。また、子育ての相談に応じている。
VII 地域住民や関係機関との連携	地域の高齢者交流は、特別養護老人ホームやケアプラザに年間を通して訪問し、握手会・クリスマス会など、園の中だけでなく近隣の方々とのふれあいの中でたくさんを学んでいる。幼保小連携交流に積極的に参加し、年に2回近隣の小学校と連携し、年長の就学の緩和に努めている。
VIII 運営管理	職員間で就業規則などの規約を確認し、守秘義務を守り、質の高い保育を目指していく。 聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして、業務の効率化と改善に向け、人事労務・財務等の面から分析を行い実施している。 様々な事態を想定した避難訓練を実施し、園児の安全確保に努めたが、さらに検討を行なっていく

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>今年度初めて自己評価の取組であった。自己評価の取り組みを行う以前より日々の振り返りを大切に行っていたが、今回の取り組みを通して、職員全体で話し合う重要性について共通の理解を深め、一体となって本園の課題に取り組むことを意識する機会となった。教職員が各自の仕事に責任を持ち、本園の教育理念を理解すると共に、常に話し合いの場を持ちさらなる教育・保育の充実を図る努力をしたい。</p> <p>役職や経験年数に関わらず、同僚性として語り合うことを目標としている。また、それぞれがチェックリストをもとに自己評価を行うことで、一人ひとりの資質向上に役立つよう、今後の課題としたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	子どもの主体性を大切にした保育の取り組みを重ね、新しい幼稚園教育要領に基づき、適切な環境構成や再構成の工夫についてさらに深めていく。全体のカリキュラム内の細かい変更を子どもたちの育ちや学びに合わせて見直しを行い、子どもにとって直接体験のできるカリキュラムを新しく盛り込み職員全体で共有を図っていく。ウェブ型記録やウェブ式指導計画、ドキュメンテーションなどの取組を進めていく。
保育環境の充実	子どもの育ち、学びに応じた教育・保育環境の充実について、室内環境および園庭の環境について職員間で検討していく。
安全管理体制の強化	万一の自然災害、様々な危険に対して、職員配置・保育プログラムの見直し安全計画を検討し、全教職員への周知を行う。 園舎施設全体の各箇所における安全点検を決められた担当者を中心に定期的に行う。遊具や 用品・用具についても同様の徹底を行う。 園内研修での「ヒヤリ・ハット」を見直し、遊具の使い方や保育室の環境などを全職員で安全面への共通理解を行う。
教職員の資質向上	園内研修をさらに充実させて、外部研修及び職員が受講した研修を発表する機会を設け、共通理解を図る。

学校評価 幼稚園チェックリスト<ステップ1>

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

I 教育目標・教育方針

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育目標や教育方針はわかりやすい。	B
②	園の教育目標が子どもたちの中に生きている。	
③	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	
④	園の教育目標は、幼稚園教育要領の内容に沿ったものになっていると言える。	
⑤	教育方針は、その時々幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	
⑥	園の教育目標は、園の創立の理念を生かしている。	

II 教育課程・指導計画

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	B
②	子どもたちの年齢ごとの教育課程がある。	
③	園の教育課程は、園長と先生方が話し合いながら作られている。	
④	園の教育課程は、必要に応じて見直されている。	
⑤	幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	
⑥	幼児の教育に、地域の自然や施設を活用している。	

III 教育環境

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	B
②	幼児の動きや視線の動きに気を配った構成をしている。	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り、消防署見学など）を取り入れるようにしている。	
⑤	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換が行われている。	
⑥	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	

IV 教育の内容・方法

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	教育内容や方法は、園の教育課程を基にして作られている。	B
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	
③	園で動物を飼ったり植物を育てたりしている。	
④	遊びを通してルールを学んだり、我慢したりといった経験を積めるような工夫をしている。	
⑤	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	
⑥	食べ物についての話をする機会がある。	

V 教師の役割・資質向上

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	B
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	
④	研修に行った先生の研修内容は、全員に紹介される。	
⑤	幼児のモデルとなれるよう気をつけている。	
⑥	保護者との信頼関係ができています。	

VI 子育て支援

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	保護者の子育てについての相談にのっている。	B
②	園や園庭の開放を行っている。	
③	子育て支援の内容について全員で話し合いをしている。	
④	子育て講演、情報提供を行っている。	
⑤	3歳未満の、親子の子育て支援をしている。	
⑥	幼児のことについて相談できる専門機関がある。	

VII 地域住民や関係機関との連携

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	B
②	地域の小学校の行事や公開授業を見学に行く。	
③	地域の方は、園のことに興味を持ったり、園の方針を理解している。	
④	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	
⑤	保護者だけでなく地域の人でも行事に協力している。	
⑥	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	

VIII 運営管理

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	B
②	現金の管理は間違いのないように行っている。	
③	先生方は、災害や事故報告書の作り方を知っている。	
④	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	
⑤	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	
⑥	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	